

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5 年 2 月 27 日

事業所名

ワークセンター藤の森

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		学年・特性ごとにグループ分け	スペースが確保された建物を新設したため確保が出来たと思っております。
	2 職員の配置数は適切である	○		障害者総合支援法に基づき、職員を配置しています。	基準の配置はできているものの職員が増えれば支援の幅も広がると考えています。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			建物にはスロープ、手すりがついております。またバリアフリートイレもございます。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		職員会議などで個人の課題や全体の目標を話し合っています	療育などで個人ごとにミーティングや伝達事項を共有しています。また、支援内容についてもみんなで話し合い振り返りを行っています。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			今年度の施設アンケートを実施いたしました。様々な意見が寄せられたため、資質の向上、検討につなげていきます。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		当法人のHPIにて公開	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		現在の段階で第三者による評価の受審がないため、自己評価にて業務の見直しを行っています。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		・研修会への参加 ・施設内研修会の実施	今年度の研修関係はコロナの影響で十分に確保できなかったですが、リモート研修や施設内研修など行っております。
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			相談支援専門や関係機関と連携しながら子どもと保護者のニーズや課題を分析しています。また、半年に一度保護者や本人と面談を行い、課題を分析しながら計画内容を検討しています。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○	法人独自のアセスメント表で統一しています	今後もアセスメントの適正化を図るように検討していきます。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		職員全員で立案し、計画、実施、見直しを行っています	チームでの立案を行っております。利用される皆さんが楽しみながら成長できるように考えております。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		プログラムは固定し、中身は変えるなど工夫しています	動的活動・静的活動を交互に取り入れながら活動しています。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		その時にしかできないことや午前・午後でプログラムを変えるなど行っています。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			保護者の方からのニーズでお友達との交流がたくさん上がっております。必要に応じて個別に支援を行いスキルを高められるようにしています。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		定期的に前日の引継ぎとその日の役割について話し合っています。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		・支援日誌の活用 ・次の日に引継ぎの実施	終了後は送迎に入るためスタッフが揃わず支援後の打ち合わせはできていませんが日々の支援日誌、翌日のミーティングで共有しています。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			必要に応じてケース検討をしています。
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			半年に一度保護者や本人、また学校を訪問し学校での様子を踏まえたうえで計画の見直しを行っています。	
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○		行事や季節ごとに合わせた活動・選択できるような活動を提供しています。今後は支援のバリエーションを増やし活動の幅を広げていきたいと思っております。		

関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○	児童発達支援管理責任者または担当職員が参画するようにしています。	会議の内容に関して職員会議で共有するようにしています。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○	学校に訪問し児童の情報共有や送迎時の連絡調整など行うようにしています。時間割表や行事予定をいただき下校時刻の確認を行っています	今年は学校の御協力もいただき、利用児童のすべての学校と連携を図ることが出来ました。引き続き連携が図れるようにしていきます。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		現段階で常時医療的ケアが必要な子どもさんはいませんが、アセスメント時にかかりつけ医や緊急時の対応を話し合っています。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○	就学前に地域の児童発達支援事業所を利用していた子どもさんに関しては情報が共有されています。	保育園等と情報が共有できていないのでそこが課題として出ているので、必要に応じて電話での聞き取りなど検討しています。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○	卒業予定児の担当の相談支援専門員を介して情報を共有し卒業後の支援をスムーズにできるようにしています。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		今年度もコロナの影響もありリモートでの研修の参加でした。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		コロナの影響もあり、地域の学童クラブとの交流が減ってきている状況にあるの今後、連携図りながら、子どもさんの参加の機会を増やしていきます。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○	職員が参加し内容を共有しています	市内の児童発達支援事業所間で情報の共有など行っています。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○	利用時の状況に関しては、日々の連絡帳でのやり取り、送迎時に伝えることで状況の伝達を行なっています。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○	トレーニング等はまだできておりませんが質問や相談があった際は関係機関と連携し事業所での取り組み等をお伝えするようにしています。	療育の講座や保護者の皆様との勉強会などは開催できていないため、今後も検討していきます。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○	契約時に運営規定・重要事項説明書の説明を行っています。難しい内容なので説明の際には質問の時間を適宜設けわからないところはその場でお伝えしている。	なるべくわかりやすいようにかみ砕いて説明するようにこれからも取り組んでいきます。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○	連絡帳や送迎時に相談があった際はその都度お答えし、チームでも共有しています。必要な場合には関係機関とも共有しています。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○	苦情については、苦情受付担当者や相談・苦情窓口を設置していることを契約時にお伝えしています。職員へは苦情解決のマニュアルを周知し、苦情に対して迅速に対応できるように行っております。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		定期的な会報は発行できていない状況です。保護者の皆様や子どもさんの楽しみの一環・予定の把握として発行していけたらと検討中です。

	35	個人情報に十分注意している	○		個人情報については、事前に許可が得られた方は使用するなどしています。また契約時にも個人情報については説明を行っております。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		ジェスチャーや具体物を使い伝達や疎通を図っています。また、連絡帳を活用し情報の共有に努めています。	事業所で行っている方法、家庭で行っている方法をそれぞれ共有できるようにしています。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		現在、地域住民を招いての活動は行えていないので、今後の課題です。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			各マニュアル集を作りいつでも確認できるようにしています。対応についてはその都度資料をお配りしておりますが、広く周知できるように勤めてまいります。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている		○	想定される災害の避難訓練を実施しています。	災害訓練と感染症対策を両立しながら計画をしたいと思えます。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		権利擁護・虐待防止に関する内部研修も法人全体で実施しています。	施設外での研修は行えないため、リモート等で参加の機会を確保しております。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		○		現在、対象となるお子さんはいらっしゃいませんが、契約時に説明を行い状況に応じて個別に対応などしています。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○		現在、食物アレルギーがある子どもさんはアセスメント時に聞き取りを行っています。対応を共有しています。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハットがあった場合はその日に共有できるようにしていま	